

「不易流行」

よき伝統を守りながら(不易)

進歩に目を閉ざさないこと(流行)によって

「理想」を創造する

長い道のりを乗り越え

夢を形にする

米子東高校が23年ぶりに甲子園に出場した日、閉校して10年が経過する旧俣野小学校が地域医療人材育成拠点施設「俣野ふれ愛学舎」として再出発する、オープニングセレモニーを開催しました。日本財団の支援を受けることができ、ようやくこの日を迎えることができました。長い道のりでしたが、夢を形にすることができたのは、江尾診療所の武地所長の地域医療にかける思いはもちろんのこと、鳥取大学や鳥取大学地域医療研究部とのつながり、「江府町の地域医療を支援する会」の存在、そして、何よりも地域の皆さんのご理解とご協力があったこそだと思います。

現代は、高度成長、大量生産の時代と違い、多くの公共施設を整備、維持することは困難になっています。そこで、本町では役場新



▲「俣野ふれ愛学舎」オープニングセレモニーでの記念写真

庁舎を建設することに併せて、町全体の公共施設のあり方について、将来を見据えた検討を行うことにしています。現在、江府町に住んでいる人はもちろんのこと、将来にわたって江府町で住まわれる人にとってどんな施設が必要なのか、住民の皆さんのお知恵もいただきながら、しっかりとした計画を立てていかなければならないと考えています。江府町は小さな町ですが、皆で理解し合い、協力し合いながら、将来にわたって充実した生活を送ることができるよう、努力していこうではありませんか。

「3000人の楽しい町」プロジェクトチーム活動報告

リニューアルしました!

これまでの活動の様子はQRコードを読み取ることでご覧いただけます。

20〜30歳代の役場職員で名乗りを上げた4人の職員と、その職員から選出されたリーダーで構成される、新年度の「3000人の楽しい町」プロジェクトチームに4月1日(月)、辞令が交付されました。

このプロジェクトは平成28年度途中から始まり、行政の縦割りを超えて、住民や役場が抱えている課題を解決するための「道しるべ」を見つけることを目的に活動してきました。これまでの活動を少し振り返ると、1年目の平成28年度は、鳥根県雲南市に赴き「小規模多機能自治」を視察したほか、旧小学校区4地区でワークショップを行いました。また、職員向けのワークショップも行いました。2年目の平成29年度は役場新庁舎の設計に住民の声を反映させるため、計4回のワークショップを実施しました。意見をとりまとめ議会に提出し、一部は設計に反映されました。3年目の平成30年度は支え合い、助け合いのまちづくりをテーマとした講演会やワークショップを重ね、活動にむけたチーム「協議体」の発足をサポートしてきました。

さて、平成31年度のテーマは「しごとのかたち」見直しアクション

2019です。これは、プロジェクトの活動1年目で行った職員向けワークショップから見えてきた、「みんなの困りごとをみんなで考えよう」ということを課題にしています。「しごとのかたち」は「仕事のやり方改善」に取り組み中で、職員としてのスキルアップや意識改革を進めていきます。また、2年目の活動で見えてきた、「言ってもムダ」という雰囲気脱却し、自由に意見を言える場を創り出したいと思っています。

		
中川 敦紀 【建設課】	梅林 徹 【総務課】	生田志保リーダー 【福祉保健課】
		
平林 知紘 【住民課】	谷口宗一郎 【総務課】	